

橋本  
登代子

東北に住む民俗研究家の結城登美雄さんは10年かけて東北の小さな集落を歩き、土地の老人たちの話をまとめ「宮城の食へ物ごよみ」という、新聞の見開きと同じ大きさの暦を作りました。そこには食へ物、習わしなど、自然の中で暮らしてきた人たちの様子が丁寧に書かれています。

また、同じく東北・岩木山のふもとで暮らす佐藤初女さんという84歳のおばあちゃまの握るおむすびは、悩んだり迷ったりする人の心を救うほど、力のあるものだと思います。お米と水と海苔と具の気持ち悪さを思っただけで、丁寧に握るから、

初女さんのおにぎりにはぬくもりがあります。「時間をかけるということは、心をかけるということではないかしら」。そんな言葉が心に残りました。

2人の共通点は、特別目立つわけでもない日常の中に『本当がある』ということではないでしょうか。身のまわりにあるものを大切に、役目が終わったかに見えるものでも変わらぬ気持ちで接していると、きつとそこから新しい力が生まれるのだと思います。

いま、札幌市東区の地域の人たちが、アマとホップの花による街づくりに取り組んでいます。アマ

先人の「おもい」を伝える  
街づくり

とは繊維の麻の原料となる植物で、うす紫の可憐な花をつけます。ホップはビールの原料となる白い花です。かつて、日本を代表する製麻工場やビール工場などがあつた東区の歴史を大切にしようと、平成15年から活動が続けられています。今年もそろそろ、子どもからお年寄りまで多くの人が沿道に出て、花の苗を植えることのできそうです。当然、作業の合間に昔の風景や暮らしぶりなども、語り継がれることと思います。

苗穂地区は、北海道を代表する工場群と職人のまちとして、すでに北海道遺産に選定されています。

ます。先人たちの遺したものを生かし、今に生きるわたしたちのおもいを吹き込む。それが『本当』を見失いがちな現代の私たちの生き方として求められていると思うのです。

橋本 登代子／はしもと とよこ フリーアナウンサー。札幌テレビ放送(STV)アナウンサーを経て、1989年(有)ボイスオブ サッポロを設立。STVラジオ「TONちゃんのほっかいどう大好き」パーソナリティをはじめ道内各局の番組に多数出演のほか、シンポジウムのコーディネーター、司会、講演会、マナーセミナーなど幅広く活躍。(財)太陽北海道地域づくり財団 地域づくり助成事業選定委員就任など、地域振興への関わりも深い。

